

香川県内に流通する食品中の残留農薬検査結果について

(平成 28 年度～令和 2 年度)

Analysis of Tests of Pesticide Residue in Food Circulating in Kagawa Prefecture (from April 2016 to March 2021)

藤田 直希 小川 佳奈 安永 恵
Naoki FUJITA Kana OGAWA Megumi YASUNAGA

要 旨

香川県内に流通していた農産物及びその加工品の残留農薬検査について、平成 28 年度から令和 2 年度までの 5 年間の結果を集計した。317 検体（国産品 173 検体、輸入品 144 検体）の検査を実施しており、115 検体（国産品 30 検体、輸入品 85 検体）から残留農薬を検出（検出率 36%）した。検出した農薬は 47 種類だった。令和元年度に県内産ほうれんそうからクロロタロニルが 13 ppm 検出され、残留基準値（4 ppm）を超えた。対象期間中に基準値を超えた検体は 1 検体だった。

キーワード：香川県産農産物 残留農薬 残留基準値

I はじめに

表 1 検体内訳

当センターでは、香川県内に流通している食品について、残留農薬検査や食品添加物検査等を実施している。平成 23 年度から平成 27 年度（2011 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日）の 5 年間に実施した食品中の残留農薬検査¹⁾では、467 検体中 195 検体（検出率 42%）から残留農薬が検出された。そのうち 2 検体から残留基準値を超える濃度の農薬（イマザリル、クロロタロニル）が検出され、1 検体から不検出基準の農薬（ディルドリン）が検出された。

分類	農産物名	国産品	輸入品	合計
葉菜類	キャベツ	30	0	30
	こまつな	5	7	12
	にら	0	5	5
	ねぎ	6	1	7
	ブロッコリー	24	11	35
	ほうれんそう	26	8	34
	レタス	21	0	21
果菜類	えだまめ	0	23	23
	かぼちゃ	0	13	13
	きゅうり	29	3	32
	なす	27	0	27
	ピーマン	4	4	8
根菜類	ばれいしょ	1	14	15
果実類	オレンジ	0	13	13
	グレープフルーツ	0	11	11
	バナナ	0	20	20
	レモン	0	11	11
合計		173	144	317

本稿では、平成 28 年度から令和 2 年度（2016 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日）の 5 年間に実施した残留農薬検査結果を集計し報告する。

II 方法

1 対象検体

平成 28 年度から令和 2 年度に香川県内で流通していた農産物及びその加工品 17 種類 317 検体を対象とした。検体の内訳を表 1 に示す。

2 対象農薬

殺虫剤 166 種類、殺菌剤 93 種類、除草剤 101 種類、その他の農薬 9 種類、計 369 種類について実施した。

3 装置

(1) ガスクロマトグラフ

株式会社島津製作所 GC17A (FPD)

株式会社島津製作所 GC2014 (ECD)

(2) ガスクロマトグラフ質量分析計

Thermo Fisher SCIENTIFIC 社 TSQ Quantum GC

(平成 30 年 10 月まで)

株式会社島津製作所 GCMS-TQ8040 (令和 2 年 1 月)

から)

株式会社島津製作所 QP5050

(3) 液体クロマトグラフ

株式会社島津製作所 LC-10AD VP

(4) 液体クロマトグラフ質量分析計

Waters 社 ACQUITY UPLC TQD (令和 2 年 1 月まで)

Waters 社 ACQUITY UPLC H-Class PLUS / Xevo TQD (令和 2 年 7 月から)

4 分析方法

厚生労働省通知試験法に準じて実施した。

III 結果と考察

1 検査数

検査数の年度別推移を表 2 に示す。平成 28 年度は 65 検体延べ 8,788 農薬、平成 29 年度は 68 検体延べ 9,361 農薬、平成 30 年度は 65 検体延べ 8,720 農薬、令和元年度(平成 31 年度)は 66 検体延べ 10,865 農薬、令和 2 年度は 53 検体延べ 10,776 農薬の分析を実施した。

表 2 検査数年度別推移

	H28	H29	H30	R1(H31)	R2
検体数	65	68	65	66	53
－国産品	29	34	37	36	37
－輸入品	36	34	28	30	16
延べ検査農薬数	8,788	9,361	8,720	10,865	10,776
1検体あたり					
平均検査農薬数	135	138	134	165	203

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の収去検査を実施しなかったため、検体数が減少した。

対象期間中に GC/MS/MS、LC/MS/MS の更新に伴う妥当性評価及び検査項目の見直しを実施したため、1 検体あたりの平均検査農薬数は令和元年度(平成 31 年度)から令和 2 年度にかけて増加した。

2 農産物別農薬検出状況

農産物別の検体数、農薬の検出数、検出率を表 3 に示す。17 品目中 16 品目、317 検体中 115 検体 (36%) から農薬を検出した。平成 23 年度から平成 27 年度の検出率 42%と比較して、6 ポイント減少したが、ほぼ同程度と考えられた。

農産物別の農薬検出率(検出数/検体数)は、検体数が 1 検体の農産物を除いて、高い順に、輸入グレープフルーツ 100% (11/11)、輸入オレンジ 92% (12/13)、

輸入レモン 91% (10/11)、輸入こまつな 86% (6/7)、輸入にら 80% (4/5)、輸入バナナ 80% (16/20)、輸入ほうれんそう 75% (6/8)、輸入きゅうり 67% (2/3) などとなった。

国産キャベツ(30 検体)、国産ブロッコリー(24 検体)、国産ばれいしょ(1 検体)、輸入ピーマン(4 検体)からは農薬を検出しなかった。

1 検体から 5 種類以上の農薬を検出した農産物は、輸入グレープフルーツ 6 検体、輸入レモン 5 検体、輸入かぼちゃ 1 検体、国産なす 1 検体、輸入きゅうり 1 検体だった。輸入グレープフルーツ及び輸入レモンは、1 検体から検出される農薬数が多く、輸入グレープフルーツは平均 4.8 (殺虫剤 2.1、殺菌剤 2.7) 種類、輸入レモンは平均 3.6 (殺虫剤 0.8、殺菌剤 2.7) 種類の農薬が検出された。検出農薬数が最も多かった検体は、輸入グレープフルーツで、10 種類(殺虫剤 5 種類、殺菌剤 5 種類)の農薬を検出した。

農産物別の検出農薬と検出数、濃度範囲を表 4 に示す。農産物と検出農薬の組み合わせでは、検体数が 1 検体の農産物を除いて、検出率の高い順に、輸入オレンジイマザリル 92% (12/13)、輸入オレンジチアベンダゾール 92% (12/13)、輸入こまつなイミダクロプリド 86% (6/7)、輸入グレープフルーツイマザリル 82% (9/11)、輸入バナナクロロピリホス 75% (15/20)、輸入グレープフルーツチアベンダゾール 73% (8/11)、輸入レモンイマザリル 73% (8/11)、輸入レモンチアベンダゾール 73% (8/11)、輸入レモンフルジオキソニル 64% (7/11) などとなった。

輸入柑橘(オレンジ、レモン、グレープフルーツ)からは、防かび剤であるイマザリル及びチアベンダゾールを 73~92%で検出した。特に、輸入オレンジでは、92%の検体でイマザリル及びチアベンダゾールの 2 農薬を検出し、この 2 農薬以外の防かび剤を検出しなかった。イマザリル及びチアベンダゾール以外の防かび剤では、グレープフルーツからオルトフェニルフェノールやピリメタニルを、レモンからアゾキシストロビンやピリメタニル、フルジオキソニルを検出しており、輸入柑橘は防かび剤の使用頻度が高かった。

輸入こまつなは 86%から農薬を検出しており、農薬を検出したすべての検体でネオニコチノイド系殺虫剤であるイミダクロプリドを検出した。また、農薬を検出した検体すべてから、殺虫剤と殺菌剤の両方を検出した。輸入こまつなは、

殺虫剤としてイミダクロプリド、殺菌剤としてアゾキシストロビンもしくはジメトモルフの使用頻度が高いと考えられた。

3 農薬別検出状況

農薬分類別の検出数、検出率を表5に示す。また、農薬別の検査数、検出数、検出率を表6に示す。47種類延べ258農薬を検出した。平成23年度から平成27年度に検出数上位であった農薬は、トリフルラリンを除き、今回も検出され、農薬の検出傾向は大きく変わっていないと考えられた。

表5 農薬分類別検出数

分類	国産品(173検体)		輸入品(144検体)	
	検出数	検出率(%)	検出数	検出率(%)
殺虫剤	22	13	63	44
殺菌剤	14	8	51	35
除草剤	0	0	6	4
その他	0	0	0	0

(1) 殺虫剤

殺虫剤は、国産品から22検体(13%)、輸入品から63検体(44%)検出された。検出農薬は25種類だった。

農薬別にみると、国産品では、検出率の高い順に、ジノテフラン6%(4/65)、クロルフェナピル6%(4/67)、トルフェンピラド5%(3/58)、イミダクロプリド5%(5/101)、クロチアニジン5%(5/103)だった。輸入品では、検出率の高い順に、シペルメトリン31%(14/45)、クロルピリホス19%(27/144)、フェンプロパトリン15%(6/41)、イミダクロプリド14%(14/100)、ジコホール9%(2/23)だった。

検出率の高い農薬に着目すると、国産品では、ネオニコチノイド系農薬であるジノテフラン、イミダクロプリド、クロチアニジンの検出率が上位となった。他のネオニコチノイド系農薬であるアセタミプリドやチアメトキサムも複数の検体で検出した。輸入品では、ジノテフランは検出されなかったが、イミダクロプリドは輸入こまつなの86%、輸入ほうれんそうの50%から検出し、検出率上位だった。また、アセタミプリドやクロチアニジン、チアメトキサムも複数の検体で検出した。

輸入品の31%から、ピレスロイド系殺虫剤であるシペルメトリンを検出した。シペルメトリンは、こまつな、にら、ほうれんそう、えだまめ、グレープフルーツ、レモンの6品目から、9~40%検出しており、さまざまな農産物に使用されていると考えられた。また、国産品では3%しか検出されておらず、検出傾向に差が見られた。

輸入品の19%から、有機リン系殺虫剤であるクロルピリホ

スを検出しており、検出した27検体中26検体が輸入果実だった。特に輸入バナナでは、クロルピリホスを75%の検体から検出しており、使用頻度が高いと考えられた。

輸入グレープフルーツの55%から、ピレスロイド系殺虫剤であるフェンプロパトリンを検出した。フェンプロパトリンは、輸入グレープフルーツのみから検出され、他の輸入品では検出されなかった。

(2) 殺菌剤

殺菌剤は、国産品から14検体(8%)、輸入品から51検体(35%)検出された。検出農薬は20種類だった。

農薬別にみると、国産品では、検出率の高い順に、プロシミドン7%(5/70)、メタラキシル6%(2/34)、キヤプタン3%(1/32)、クレソキシムメチル3%(2/67)、クロロタロニル3%(1/34)だった。輸入品では、検出数が1検体の農薬を除いて、検出率の高い順に、チアベンダゾール27%(28/104)、イマザリル26%(29/113)、アゾキシストロビン13%(15/115)、クロロタロニル12%(3/25)、フルジオキシソニル8%(7/84)だった。

国産品で最も検出率の高い殺菌剤は、ジカルボキシイミド系殺菌剤であるプロシミドンだった。きゅうり、なす、レタスから検出されたが、各農産物における検出率は低かった(5~7%)。他の殺菌剤は、国産品からの検出数が1~2検体と少なかった。

輸入品で検出率の高かったチアベンダゾール、イマザリル、アゾキシストロビン、フルジオキシソニルは、輸入果実に防かび剤として使用されていると考えられた。

クロロニトリル系殺菌剤のクロロタロニルは、輸入えだまめ、輸入にら、輸入バナナ、国産ほうれんそうから1検体ずつ検出した。国産ほうれんそうでは、34検体中1検体のみ(3%)から検出され、その濃度が基準値を超えた。

(3) 除草剤

除草剤は、国産品からは検出されず、輸入品から6検体(4%)検出された。検出農薬は2種類で、クロルプロファム10%(5/49)、ペンディメタリン2%(1/44)だった。

クロルプロファムはすべて輸入ばれいしょからの検出であり、ばれいしょの萌芽を抑制するために使用されていると考えられた。

(4) その他の農薬

その他の農薬は検出されなかった。

4 基準値違反

令和元年度に県内産ほうれんそうからクロロタロニルが13 ppm 検出され、残留基準値4 ppm を超えた。基準値違反となった検体は、317 検体中1 検体（違反率0.3%）だった。

クロロタロニルの一日摂取許容量は0.018 mg/kg 体重/日²であるため、体重50 kg の成人の場合は0.9 mg/日である。ほうれんそうの平均的な一日の摂取量は9.0 g³であり、今回検出したクロロタロニル13 ppm を含む検体を9.0 g 摂取した場合、クロロタロニルの摂取量は0.117 mg である。この摂取量は、体重50 kg の成人における一日摂取許容量の13%に相当する。一日摂取許容量は、生涯毎日食べ続けても健康に悪影響がないと推定される一日あたりの摂取量であるため、今回の検体を喫食したことで直ちに健康を害する恐れはないと考えられる。

平成23年度から平成27年度においては、基準値を超えたか、もしくは不検出基準の農薬を検出した検体は、県内産ほうれんそう2 検体と輸入オレンジ1 検体だった。今回集計した平成28年度から令和2年度においては、基準値を超えた検体は県内産ほうれんそう1 検体だった。平成23年度から令和2年度までの10年間に、4 検体の違反があり、そのうち3 検体が県内産ほうれんそうだった。このうち1 検体は、難分解性で土壌残留するディルドリンを検出したものだったが、残り2 検体はどちらもクロロタロニルで、5.5 ppm と13 ppm の検出だった。今後も、県内産ほうれんそうのクロ

ロタロニルについて、特に注視する必要があると考えられた。

IV まとめ

香川県内に流通していた農産物及びその加工品について、平成28年度から令和2年度の5年間の残留農薬検査結果を集計した。317 検体の検査を実施しており、115 検体から残留農薬を検出（検出率36%）したが、基準値を超えた検体は1 検体だった。

県民の食の安全・安心に貢献するため、今後もより効果的な検査を実施していきたい。

文献

- 1) 氏家あけみ: 香川県内に流通する食品中の残留農薬検査結果について(平成23年度～平成27年度), 香川県環境保健研究センター所報, 15, 70-75, (2016)
- 2) 食品安全委員会委員長通知: 食品健康影響評価の結果の通知について, 府食第173号(平成30年3月27日), <https://www.fsc.go.jp/fscis/evaluation/Document/show/kya20170721082>(令和4年9月29日閲覧)
- 3) 厚生労働省: 令和元年国民健康・栄養調査報告, <https://www.mhlw.go.jp/content/000710991.pdf>(令和4年9月29日閲覧)

表3 農産物別検体数及び検出数

分類	農産物名	国産品			輸入品			合計		
		検体数	検出数	検出率(%)	検体数	検出数	検出率(%)	検体数	検出数	検出率(%)
葉菜類	キャベツ	30	0	0	0	-	-	30	0	0
	こまつな	5	1	20	7	6	86	12	7	58
	にら	0	-	-	5	4	80	5	4	80
	ねぎ	6	1	17	1	1	100	7	2	29
	ブロッコリー	24	0	0	11	2	18	35	2	6
	ほうれんそう	26	5	19	8	6	75	34	11	32
	レタス	21	2	10	0	-	-	21	2	10
	合計	112	9	8	32	19	59	144	28	19
果菜類	えだまめ	0	-	-	23	7	30	23	7	30
	かぼちゃ	0	-	-	13	2	15	13	2	15
	きゅうり	29	12	41	3	2	67	32	14	44
	なす	27	8	30	0	-	-	27	8	30
	ピーマン	4	1	25	4	0	0	8	1	13
	合計	60	21	35	43	11	26	103	32	31
根菜類	ばれいしょ	1	0	0	14	6	43	15	6	40
	合計	1	0	0	14	6	43	15	6	40
果実類	オレンジ	0	-	-	13	12	92	13	12	92
	グレープフルーツ	0	-	-	11	11	100	11	11	100
	バナナ	0	-	-	20	16	80	20	16	80
	レモン	0	-	-	11	10	91	11	10	91
	合計	0	-	-	55	49	89	55	49	89
総計		173	30	17	144	85	60	317	115	36

表4 農産物別検出農薬

農産物名	検出農薬名	基準値 (ppm)	国産品			輸入品		
			検出数	検出率 (%)	濃度範囲 (ppm)	検出数	検出率 (%)	濃度範囲 (ppm)
キャベツ	-	-	0	0	-	-	-	-
こまつな	アゾキシストロビン	15	0	0	-	4	57	0.02-0.08
	イミダクロプリド	5	0	0	-	6	86	0.02-0.03
	クロルフェナピル	5	1	20	0.02	0	0	-
	シベルメトリン	6	1	20	0.4	2	29	0.02-0.55
	ジメトモルフ	20	0	0	-	2	29	0.03-0.08
	チアメトキサム	5	0	0	-	2	29	0.02-0.04
	アゾキシストロビン	10	-	-	-	2	40	0.03-0.08
にら	クロチアニジン	15	-	-	-	2	40	0.09-0.30
	クロロタロニル	2	-	-	-	1	20	0.03
	シベルメトリン	3	-	-	-	2	40	0.02-0.05
	チアメトキサム	2	-	-	-	2	40	0.01-0.03
	プロシミドン	0.01	-	-	-	1	20	0.02 ^{※1}
	エトフェンプロックス	2	1	17	0.08	0	0	-
ねぎ	チアメトキサム	2	0	0	-	1	100	0.01
	イプロジオン	25	0	0	-	1	9	0.02
ブロッコリー	チアメトキサム	5	0	0	-	1	9	0.006
	アセタミプリド	3	0	0	-	1	13	0.1
ほうれんそう	イミダクロプリド	15	1	4	0.51	4	50	0.01-0.09
	クロチアニジン	40	1	4	0.03	0	0	-
	クロルフェナピル	3	1	4	1.7	1	13	0.04
	クロロタロニル	4	1	4	13	0	0	-
	ジノテフラン	15	2	8	0.03-0.16	0	0	-
	シベルメトリン	5	1	4	0.03	2	25	0.01-0.06
	ジメトモルフ	50	0	0	-	3	38	0.01-0.06
	プロピコナゾール	0.05	1	4	0.01	0	0	-
	チアメトキサム	3	1	5	0.01	-	-	-
	プロシミドン	2	1	5	0.02	-	-	-
えだまめ	アセタミプリド	3	-	-	-	4	17	0.01-0.05
	アゾキシストロビン	5	-	-	-	3	13	0.02-0.12
	イミダクロプリド	3	-	-	-	1	4	0.02
	インドキサカルブ	1	-	-	-	1	4	0.01
	クロロタロニル	2	-	-	-	1	4	0.02
	シベルメトリン	2	-	-	-	2	9	0.01-0.03
	ビフェントリン	0.6	-	-	-	1	4	0.02
	ピラクロストロビン	0.5	-	-	-	1	4	0.11
かぼちゃ	イミダクロプリド	1	-	-	-	1	8	0.01
	エンドリン	0.05	-	-	-	1	8	0.002
	クロチアニジン	0.4	-	-	-	1	8	0.01
	チアメトキサム	0.5	-	-	-	1	8	0.02
	ディルドリン	0.1	-	-	-	1	8	0.006

表4 続き

農産物名	検出農薬名	基準値 (ppm)	国産品			輸入品		
			検出数	検出率 (%)	濃度範囲 (ppm)	検出数	検出率 (%)	濃度範囲 (ppm)
かぼちゃ	プロクロラズ	0.01	-	-	-	1	8	0.02※2
	ミクロブタニル	0.2	-	-	-	1	8	0.01
きゅうり	アセタミプリド	2	1	3	0.17	0	0	-
	アゾキシストロビン	1	1	3	0.02	0	0	-
	イミダクロプリド	1	3	10	0.01-0.10	0	0	-
	キャプタン	3	1	3	0.05	0	0	-
	クレソキシムメチル	0.5	2	7	0.01-0.11	0	0	-
	クロチアニジン	2	2	7	0.01-0.02	0	0	-
	クロルフェナピル	0.5	2	7	0.02	0	0	-
	ジノテフラン	2	1	3	0.01	0	0	-
	トルフェンピラド	1	1	3	0.02	0	0	-
	ピリメタニル	2	0	0	-	1	33	0.01
	フェニトロチオン	0.3	1	3	0.05	0	0	-
	フルジオキソニル	2	1	3	0.04	0	0	-
	プロシミドン	4	2	7	0.02	0	0	-
	メソミル	0.2	1	3	0.01	0	0	-
	メタラキシル	1	2	7	0.01-0.03	1	33	0.05
	なす	アセタミプリド	2	2	7	0.03-0.22	-	-
イミダクロプリド		2	1	4	0.02	-	-	-
クロチアニジン		1	2	7	0.01-0.15	-	-	-
ジノテフラン		2	1	4	0.07	-	-	-
チアメトキサム		0.7	1	4	0.13	-	-	-
テブフェンピラド		0.5	1	4	0.01	-	-	-
トルフェンピラド		2	2	7	0.01-0.22	-	-	-
ピフェントリン		0.5	1	4	0.02	-	-	-
プロシミドン		5	2	7	0.02-0.05	-	-	-
ボスカリド		3	1	4	0.21	-	-	-
ピーマン	ホスチアゼート	0.2	1	4	0.14	-	-	-
	エトフェンプロックス	5	1	25	0.09	0	0	-
ばれいしょ	フサライド	0.01	1	25	0.01	0	0	-
	クロチアニジン	0.3	0	0	-	1	7	0.01
オレンジ	クロルピリホス	0.02	0	0	-	1	7	0.02
	クロルプロファム	30	0	0	-	5	36	0.02-2.6
	アセタミプリド	2	-	-	-	1	8	0.03
	イマザリル	5.0	-	-	-	12	92	0.80-1.9
グレープフルーツ	クロルピリホス	1	-	-	-	2	15	0.04-0.07
	チアベンダゾール	10	-	-	-	12	92	0.18-2.1
	イマザリル	5.0	-	-	-	9	82	0.14-2.6
	イミダクロプリド	0.7	-	-	-	2	18	0.01
	オルトフェニルフェノール	10	-	-	-	5	45	0.05-1.3
	クロルピリホス	1	-	-	-	4	36	0.03-0.07

表4 続き

農産物名	検出農薬名	基準値 (ppm)	国産品			輸入品		
			検出数	検出率 (%)	濃度範囲 (ppm)	検出数	検出率 (%)	濃度範囲 (ppm)
グレープフルーツ	ジコホール	5	-	-	-	2	18	0.05-0.06
	ジフルベンズロン	3	-	-	-	2	18	0.03-0.05
	シペルメトリン	2	-	-	-	4	36	0.01-0.08
	チアベンダゾール	10	-	-	-	8	73	0.24-4.5
	ピラクrostロビン	2	-	-	-	4	36	0.03-0.10
	ピリプロキシフェン	2	-	-	-	2	18	0.02
	ピリメタニル	10	-	-	-	1	9	1.1
	フェンブコナゾール	1	-	-	-	3	27	0.01-0.03
	フェンプロパトリン	5	-	-	-	6	55	0.02-0.15
	マラチオン	7	-	-	-	1	9	0.02
バナナ	クロルピリホス	2	-	-	-	15	75	0.01-0.12
	クロロタロニル	0.2	-	-	-	1	5	0.03
	デルタメトリン	0.01	-	-	-	1	5	0.01
レモン	アゾキシストロビン	10	-	-	-	6	55	0.02-1.5
	イマザリル	5.0	-	-	-	8	73	0.75-3.9
	クロルピリホス	1	-	-	-	5	45	0.01-0.10
	シフルトリン	2.0	-	-	-	1	9	0.04
	ジフルベンズロン	3	-	-	-	1	9	0.03
	シペルメトリン	2	-	-	-	2	18	0.02-0.05
	チアベンダゾール	10	-	-	-	8	73	0.01-1.6
	ピリメタニル	10	-	-	-	1	9	0.66
	フルジオキシソニル	10	-	-	-	7	64	0.25-5.1
ペンディメタリン	0.03	-	-	-	1	9	0.02	

基準値は令和4年9月29日時点

※1 検出当時の基準値は5 ppm

※2 検出当時の基準値は0.05 ppm

表6 続き

農薬名		国産品			輸入品		
		検査数	検出数	検出率(%)	検査数	検出数	検出率(%)
361	メフェンピルジエチル	11	0	0	0	-	-
362	メプロニル	64	0	0	44	0	0
363	モノクロトホス	169	0	0	140	0	0
364	モノリニュロン	60	0	0	53	0	0
365	ラクトフェン	29	0	0	33	0	0
366	リニュロン	60	0	0	53	0	0
367	ルフェスロン	56	0	0	46	0	0
368	レスメトリン	10	0	0	0	-	-
369	レナシル	62	0	0	44	0	0